



帯の形
の
主
の
形
の
主
の
形
の
主

帯
の
形
の
主
の
形
の
主

丑

小報もがみのワークショップ
わら細工で正月飾りづくり

2020年12月22日（火）
10:00～12:00（9:30～受付）

会場／最上町中央公民館みどりホール

参加費／1,200円（わら、花材代）

定員／10名

申込み〆切／12月18日（金）

持ち物／ハサミ、霧吹き、飾りに使いたいものがあれば
お持ちください（数種類の花材はこちらで用意します）

お申込み方法／下記いずれかの方法でお名前・お電話番号をお知らせください。

電話 080-3256-1134（山崎）

メール hayakawamiyage@gmail.com

※お子様連れ大歓迎！

※新型コロナウイルス感染対策として少人数・広いスペース・マスク着用での開催となります。

※開催1週間前に町内で新型コロナウイルス感染者が出た場合は中止になります（参加者に直接ご連絡します）。

※開催日までの2週間以内に感染拡大地域へ行かれる予定の方は参加をご遠慮いただきます。

主催／最上町地域おこし協力隊

協力／最上町わら細工民芸品保存会

2020年12月9日発行

編集：最上町地域おこし協力隊 山崎香菜子

情報提供や山崎とお話したい方はご連絡ください

電話0233-43-2261（最上町役場まちづくり推進室）

メールhayakawamiyage@gmail.com

私は手仕事で作られたものが好きだ。身の回りにあるもののほとんどが工場で量産されたものだが、その中に知っている誰かが作ったものがあるとホッとするし、何より美しい。使っていて心が豊かになるし、直しながら大切にしていきたいと思う。

東北の冬は雪に閉ざされてしまうため、昔から手仕事が盛んに行われていた。わら細工や、つる細工が代表的なものだが、最近ではクラフトバンドやPPバンドを使って編むバッグも人気で、これも新しい手仕事のひとつになりつつある。最上町に来て初めて見た沢原はげごの会の「はげごバッグ」は、その模様や色合わせの美しさはもちろん、頑丈さにも驚いた。お母さんたちの知恵と手先の器用さがあるからこそできる、この土地ならではの工芸品だ。

堺田には「最上町わら細工民芸品保存会」があり、冬季間、毎週のように集まっては、それぞれに好きなものを作っている。かつて、わらは生活のあらゆる所に使われていた。わらじ、雪靴、円座、おひつ入れ、鍋敷き、むしろ、蓑（みの）…。稲は捨てる場所がないと言われていた。もちろん現代でわらじを履いている人は時代劇や祭りくらいでしか見なくなったが、新しい発想で生み出すこともできると思っている。わらで紐を作ってラッピングに使ったり、子供の足の発達によいとされている草履も作ってみたい。何よりわら絢（な）いが出来るってカッコいい。

効率化、工業化で便利を享受しながらも、決して暇になることはない不思議。その対極にある手仕事のゆったりとした時間の流れは、心を穏やかにし、新しい発想を生み出してくれるかもしれない。